

【用語解説】

※1「お茶の間宣言」

かけがわお茶の間宣言のこと。
人づくりの土台である家庭において、家族が集う「お茶の間」の役割を再認識していくことで、家族団らんから生まれる財産をもとにし、豊かな広がりのある人づくりにつなげ、市民総ぐるみで教育の振興を図る契機とする。

※2「中学校区学園化構想」

市内9つの中学校区を「学園」と呼び、保育園、幼稚園、幼保園、小学校、中学校が連携を強化し、地域に根ざした教育活動を推進している。子どもの発達段階に応じた一貫性のある教育の推進と、地域の財（地域の人材や環境、文化など）を生かした教育活動を展開していく。

※3「かけがわ型スキル」

これからのグローバル社会を生き抜くために求められる思考力や問題解決能力、人とかかわるコミュニケーション能力など、次代を担う子どもたちが身に付けるべき「21世紀型スキル」（国際団体「ATC21s」が提唱する4カテゴリ10スキル）を参考に6項目を定めたもの。言語活動を重視している。

- ①思考力 ②問題解決力 ③意思決定力 ④コミュニケーション力 ⑤情報の選択・活用力
- ⑥地域や社会の中で生きるためのキャリア

※4「生涯お達人市民」

健康で生きがいを持って生活している人、自立して生活している人のこと。
65歳以上で要介護1以下のお達人市民の人数を指標としている。



計画の位置づけ

掛川市総合計画

(掛川市地域創生総合戦略)
期間：H28～37 (10年)

3つの日本一

教育文化 健康・子育て 環境

教育大綱かけがわ

期間：H28～37 (10年)

人づくり構想かけがわ

(掛川市教育振興基本計画 後期)
期間：H26～30 (5年)

掛川市子ども・子育て

支援事業計画

期間：H27～31 (5年)

掛川市文化振興計画

期間：H27～36 (10年)



教育大綱かけがわ

～「教育・文化日本一」のまちを目指して～

子どもたちの未来のために

- 子どもは未来の宝です。
子どもたちが『希望』を持ち、夢や目標に向かって自分を磨くことができ、掛川に誇りと愛着を抱きながら、地域でも、グローバルにも活躍する人に、たくましく成長することを願っています。
子どもは、家族や地域の大人から多くのことを学びながら成長します。
大人には、掛川市民がこれまで培ってきた「報徳」や「生涯学習」、「協働のまちづくり」の理念を活かし、子どもたちの未来のためにできることを問いかけ合いながら、生涯学び続け、子どもたちの目標となるような、充実した人生を送って欲しいと願っています。
今、掛川市は、子どもたちの未来のために何をすべきか、何ができるのか、という視点にたって、教育大綱を定めます。

平成28年3月



教育大綱かけがわ

発行：平成28年4月
編集：掛川市企画政策部企画政策課

目指す姿

- 変化の激しい社会で生き抜く力を備えているひと
- 多様な人々を結び、地域でもグローバルにも活躍できるひと
- 高い目標を持ち、新たな価値の創造にチャレンジするひと
- 自律する心を持ち、他者の考えや痛みにも共感できるひと
- 豊かな心や健やかな体に高めていくひと

基本方針

1 ところざしと学ぶ意欲を育てる人づくり

生涯にわたって、充実した人生を過ごすためには、自己を磨くことが必要です。子どもたちの知識、感性、経験、体力、探究心、コミュニケーション力、変化への対応力等を高めるしくみづくりを進め、ところざしを持って学ぶ意欲を持ち続け、主体的に問題を解決する能力を身に付け、地域でも世界でも活躍できる人材を育みます。

2 市民総ぐるみによる学びの環境づくり

家庭、地域、園・学校、企業等、人の生涯において、学びの場は多様であり、成長の過程においてそのステージは変化します。「お茶の間宣言」^{*1} や「中学校区学園化構想」^{*2} をはじめとする「市民総ぐるみの人づくり」を推進し、先進的で特色ある学びの環境を充実し、意欲あるすべての子どもの学びの機会をつくります。

3 未来志向のまちづくり

現在の私たちのまちや暮らしは、過去、そして未来につながっています。郷土の偉人に学び、先人の培った地域の歴史、文化、伝統、知恵を受け継ぎ、郷土に対する誇りや愛着を育むとともに、未来志向で次代へつなぎ、まちの未来を支える人が躍動するまちづくりを進めます。

かけがわ未来プロジェクト

子どもたちの未来のために、基本方針に基づき10年間(2016～2025年)で重点的に取り組むべきプロジェクトを掲げます。

1 命とところざしを育むプロジェクト

情報や人の移動が世界規模となり、変化への対応が求められる時代となっています。たくましい身体の育成、命と人権、平和の大切さを学ぶ機会を充実するとともに、「かけがわ型スキル」^{*3} の習得を推進し、変化の激しい社会を生き抜くために必要な力を育みます。



2 知識、経験、感性を育むプロジェクト

これからの時代は、未来を切り拓く力が求められます。市民の学びや体験、情報の拠点の充実と多様化を進め、知識を身に付け、経験を積み、豊かな感性や創造性を育むことで教養を培い、生涯にわたって学び、何度でもチャレンジできる人づくりを推進します。



3 温かく安らぎのある家庭を育むプロジェクト

すべての教育の出発点である家庭において、豊かな広がりのある人づくりが求められています。乳幼児期から青年期まで切れ目のない総合的な家庭教育支援体制を構築し、必要な情報が家庭に届く「つながり」と「安心感」のある子育て環境を整えます。



4 郷土への誇りと愛着を育むプロジェクト

少子化や若い世代の人口流出が懸念される中、ふるさとに誇りと愛着を持って地域文化を受け継ぐ市民が求められています。これまで先人が培ってきた郷土の歴史や文化などを学ぶことにより、郷土を誇りに感じ、ふるさとを大切に思う気持ちが育つ人づくりを推進します。



5 スポーツを愛し、心身ともに健康な生活を育むプロジェクト

生涯を通じて、充実した人生を送るために、健康づくりと体力づくりは欠かせません。2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、市民の生涯スポーツへの意識啓発と、「生涯お達者市民」^{*4} の推進に取り組み、市民の健康の維持・増進を図ります。

